

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

# 鳥取県革新懇ニュース

No.52  
2017年  
11月10日

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)  
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

# 野党が一本化してこそ 国民の期待も高まる

安倍首相による臨時国会冒頭での突然の衆議院解散。所信表明演説も審議も一切なく、「疑惑隠し」など党利党略、政治を私物化する暴挙に加え、「希望の党」による野党勢力の分断と逆流が持ち込まれるなかでの選挙となりました。

昨年夏の参議院選挙からこの間、市民と野党の共闘を積極的にすすめてこられた県議会議員の長谷川稔さんに、今回の衆議院選挙についてお聞きしました。



はせがわ みのる  
長谷川 稔 さん

鳥取県議会議員(無所属)、元倉吉市長  
倉吉市議会議員当時、社会党が小選挙区制度導入・政党助成法に賛成したのに反対し、離党。その後、県議会議員、市長を経て現在、県議会議員(4期)。昨年の参議院選挙で野党統一候補勝利に奔走。鳥取県革新懇代表世話人、全国革新懇世話人。

◇選挙の結果についてどう思われますか  
安倍内閣が支持率が低下する中、北朝鮮問題を「国難」と仕立て、野党の混乱するなか解散に逃げ込んだ。当初は、民進党が希望の党に合流し、疑惑が外れた格好であったが、希望の党が瓦解し自民党が議席を確保したかみえる。  
ただし、希望の党が仮に増加した場合こそ自民党の補完勢力が力を増したに過ぎず、むしろ、立憲民主党が立ち上がり、希望の党を上回る議席を確保したことを喜びたい。共産党が選挙区において、協力支援したことを大英断と評価したい。

◇野党共闘のために積極的に取り組まれましたが、その思いをお聞かせください  
今や国政選挙は一人区の小選挙区制であることを痛切に感じているから、一野党だけではとても与党に立ち向かう選挙とならないからだ。  
全国で各党が棲み分けして、野党一本化してこそ、選挙民の期待も高まり、機運が生まれる。  
ちなみに、衆議院の比例もブロック制であることが、少数野党の死票につながっている。

◇鳥取県では野党共闘がうまくいきませんでした。今後、野党共闘を前進させるのに必要なことは何でしょうか  
今回の希望の党への合流にみられたように、民進党が究極的に共産党を切り離しに動いた。  
選挙結果が、風頼みで動くより、確かな方針と活動が続ける党と連携することが、どれ程、信頼を得ることにつながるかを民進党関係者も感じているはず。また、共産党も共闘をめざすうえで、他党を支持している民主団体等とさらなる相互理解を深める努力が求められる。

## 市民と野党の共同で 新しい政治の実現を 県革新懇2017年度総会



鳥取県革新懇は9月10日、北栄町中央公民館で2017年度総会を開催しました。  
総会では、前総会以降の活動について振り返るとともに、参加者から報告された各分野での取り組みや経験を共有。2017年度の課題と方針、役員体制を確認しました。確認された課題と方針は次のとおりです。  
一、切り開いてきた「新しい時代」を、さらに前に進める共同を各分野で発展させ、安倍政権を倒して新しい政治をひらく  
①市民と野党の本気の共闘をつくり、安倍政権を倒し、国民の願いにこたえる新しい政治をつくるため全力をあげる  
②憲法破壊阻止・立憲主義を取り戻すため、草の根の世論と運動を広げる  
③アベノミクスは中止し、国民のくらし最優先の経済政策への転換を求める  
④核兵器禁止条約を力に、核兵器廃絶・「核

兵器のない世界」の実現をめざす  
⑤沖縄に連帯し、辺野古新基地建設阻止の運動を展開させる  
⑥TPPは断念し、市場産業を振興し、地域に根ざした住民本位の「地方再生」をはかる  
⑦島根原発をはじめ、いつさいの原発再稼働反対、「原発ゼロの日本」をめざす  
⑧地域での要求運動を重視し、地域に根ざした地域づくりをすすめる、「住民が主人公」の地方政治実現に力をつくす  
二、新しい政治を拓く歴史的任務にふさわしく、県下の隅々に革新懇の組織とニュースリーダーを増やす  
①まずまず重要となる革新懇の役割を深くつかんで、革新懇づくりを本格的に前進させる  
②歴史的任務に相応しく体制強化をはかる  
③次期総会までに「全国革新懇ニュース」読者500人をめざす  
④「県革新懇ニュース」の充実と発行体制の強化をはかる

# 11月3日(憲法公布71年) 県内各地で多彩な催し開催



会場いっぱいの参加者 11月3日、米子市ふれあいの里

## 米子で憲法学習会

### 総選挙結果と9条改憲 藤田鳥大名誉教授が講演

「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション」と「総がかり行動実行委員会」が主催する国会周辺包囲大行動で4万人が「9条改憲NO!」の声を響かせたのと時を同じくして、米子市で日本国憲法公布71年記念学習講演会が開かれ、藤田安一鳥大名誉教授が「憲法9条を変えて『戦争する自衛隊』にしていいのですか?」と題して講演しました。

一、選挙の結果は自民党の圧勝だったが、野党分裂、小選挙区制マジック、北朝鮮問題による消極的勝利にすぎない。野党が統一候補を立てていけば63選挙区で勝敗が逆転していた。比例区では野党票がはるかに上回る。公明は政教一致(違憲)の政党として政権与党にしがみつく。「希望」は小池の安倍とほぼ同じ地金があらわれ、予期せぬ敗北。「立憲」は民進党からリベラルの党として分離・化に成功し、反安倍の

受け皿として大躍進。「共産」は「立憲」の立ち上げで反安倍の票が同党に流れ、大きく後退した。野党共闘と党勢拡大のジレンマをどう克服するか、今後が心配だ。護憲派にとつて、若者の「自民」支持の高さも警戒を要する。

二、選挙結果を受けて、改憲に向けての動きが本格始動する。年内に自民党改憲案を策定、両院憲法審査会で審議、18年中に改憲発議、19年夏参院選と同時に国民投票(?)、20年に改正憲法施行のスケジュール。9条に3項を追加して、専守防衛を投げ捨て集団的自衛権を行使して米国の戦争に参加する自衛隊を憲法に書き込み、9条を無力化する。

三、「戦争する自衛隊」によって報復戦争、テロ攻撃、日本本土の沖縄化、徴兵制導入の危険性が高まり、軍事費膨張の国民生活への重大な影響といったような格差・貧困の広がりが進む。

今回の選挙での敗北で「憲法改正国民投票」に臨む覚悟が必要となる。講演と活発な質疑の後、浜田章作県革新懇代表世話人が改憲投票制度に潜む問題点、「安倍改憲NO!」300万署名「推進と実戦的な憲法学習の重要性を提起しました。」

(浜田)

## はと風船配って「9条守ろう」 若桜街道歩行者天国で鳥取市9条の会



11月3日、鳥取市9条の会主催で「はと風船」とあるこう2017を開催しました。小さなお子さんや青年も含め23名の参加者が、平和の象徴である白いはとの形をした風船を持って、若桜街道などを練り歩きました。道行く子どもたちから「欲しい!」と大人気。用意した約100羽全て配りました。配るなかで家族の方々に、憲法や戦争について話もし、「安倍首相に賛成です」という方も。ゆるやかに対話ができる機会になりました。(県民医連・是枝)

## 沖縄ドキュメンタリー映画連続上映会(第3回)



- 11月23日(木・祝) 鳥取さざんか会館・大会議室
  - 第1回 10時~(託児あり)
  - 第2回 14時~(託児なし)
- 11月23日(木・祝) 倉吉交流プラザ・第1研修室
  - 第1回 14時~ 第2回 17時~
- 11月26日(日) ブイレスティエブ・ひえぶホール
  - 第1回 13時~ 第2回 15時30分~

共通入場券 1,000円(20歳未満 無料)

主催: 沖縄と連帯するとっとりの会

090-8068-9044(東部) 090-1686-6588(中部)  
090-6409-3949(西部)

沖縄の米軍や自衛隊の実態は、本土の人間にとって遠いものと感じる人は多く、その無知さはここ10年近くさらに深まっているようだ。政府は、高江への米軍ヘリパット、辺野古の新基地、宮古・石垣島の自衛隊ミサイル基地の建設と、そこに住む沖縄の人々の声を、そして琉球処分以降の沖縄の思いを蔑ろにして圧政を強いてきた。

「沖縄と連帯するとっとりの会」が今年5月に結成され、そこに参画した人たちは、150名近くとなった。多くの人たちから、より深く沖縄の現実を知りたいとの声を受け、三上智恵監督作品の沖縄ドキュメンタリー映画『標的の村』『戦場ぬ止み』『標的の島 風かたか』を9月から3ヶ月連続の上映会を計画した。9・10月の上映会は、台風直撃の日ではあったが、県内各地から200名近い方が集まり、沖縄の人たちの闘う姿に思いを馳せ、涙した。その最中の米軍ヘリの事故は、新基地建設中止の必然性を感じた。

今月23・26日は、県内3地区で『標的の島 風かたか』の上映会を開催する。新聞には南国沖縄の観光広告ばかりが目につくが、小さな島々さえ、戦争の「最前線」になっていることをこの映画は伝えている。大いなる自然と文化・歴史に支えられた沖縄の底力と希望の姿を、ぜひこの映画から受け取ってほしい。